

JOURNAL



特集
男女共同参画社会基本法
制定20年

2019 vol.62

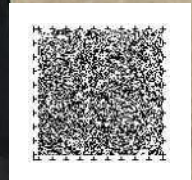


写真:九州北部豪雨被災地で学ぶ男女共同参画の様子

男女共同参画週間記念講演会

政治が変わると生活が変わる！女性議員をもっと議会に送ろう

6月22日に行われた講演の一部を要約したものです。

【世界の動向と日本の現状】

政治は、男性の領域として出発した。女性の排除は当たり前で、投票権もなく、代表になることも出来なかった。19世紀に入り、女性たちの当事者運動として女性参政権運動が始まり、20世紀後半には女性が代表として政治に参画することが世界共通の課題となった。世界は、「パリテ」(*)へと向かった。

世界の女性議員の割合は、1997年に女性議員(下院)の世界平均が12.0%であったのが、様々な取組により現在は24.1%と過去20年の間に倍増している。また、女性議員が50%以上の国が3か国、40%以上の国が15か国となっている。それに対し日本の国会に占める女性議員の割合は10.1%(衆議院)で、193か国中165位である。日本の議会は、女性議員と若手議員が少なく、男性、高齢、高所得、2世・3世議員が大多数を占めており、多様性に欠けている。



講師 シン キヨン 申 琪榮さん

(お茶の水女子大学准教授・
パリテアカデミー共同代表)

【なぜ日本は遅れているのか】

女性の政治参画を阻む壁が存在している。男女で生じる壁にも差があり、男性は立候補後に生じる壁が多いのに対し、女性は立候補に至るまでの壁が多い。家庭内の責任や性別役割等、身の回りの環境が壁になっている。ジェンダーの規範、政治文化、ロールモデルの不足、セクハラ等が要因である。

【女性議員が増えたのは自然増ではない】

諸外国で女性議員が増えたのは、女性議員を増やすための様々な政策や取り組みがあった結果である。例えば、クォータ制度(政党の候補者の一定割合を女性に割り当てる制度、もしくは議席の一定割合を女性に割り当てる制度)や女性しか立候補できない選挙区の設定などがある。

日本でも、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が、2018年5月に成立した。この法律の主な内容は、政党に男女の候補者の数をできる限り均等にすることを促すものである。また議会において、男性も女性も働きやすい環境の整備や女性や若者を対象に政治スクールやトレーニングなどを行うといった人材の育成等が盛り込まれている。

【女性議員が増えるとどのような変化が期待されるのか】

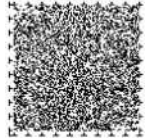
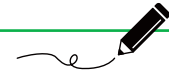
女性議員が増えるということは、多様性が増すことに繋がる。人々のさまざまな困りごとなどに耳を傾け、法律や政策に反映させるのが議員の役割だが、男性ばかりの議会では、女性や子どもたちにかかわる問題が見過ごされたり後回しにされたりしがちだ。意思決定をする場に様々な立場の人の意見が反映されることにより、議会や立法が変わっていく。具体的には、予算配分(育児・保育関連の予算の増加)や政策優先順位、投票率の上昇など政治文化に変化が起こることが期待される。

※パリテ

フランス語で「同等、同一」を意味する。日本では「パリテ」を「議員の男女比率を同率にする」ことをはじめとして、意思決定の場での男女が同数になることを表す言葉として使われている。

女性のまちづくり参画講座第1回目
九州北部豪雨被災地で学ぶ男女共同参画

6月13日



地域活動への女性の参画を進めるために、意識啓発や女性自身のスキルアップ、ネットワークづくりの支援など、地域コミュニティ組織やPTA等の役員登用につながることを目指し、平成30年度より実施している「まちづくり参画講座」。本年度の第1回目には、九州北部豪雨の被災地である朝倉市を訪問し、現地の女性の活動を体感し平常時からの男女共同参画の必要性を強く認識する講座を実施しました。定員40名が満員となり、熱心にメモを取る姿が多く見られ、災害やまちづくりに対する女性たちの熱意が感じられた一日でした。

(左)災害後、被災した母子のため開設された朝倉災害母子支援センターきずな。事務局長大庭きみ子さんに開設経緯や想いをお聞きしました。

(右)ご自身も被災者である小嶋観光株式会社小嶋社長に石詰地区の被災前の住民の暮らしと、被災後の様子を説明いただきました。



(左)松末小学校前。校庭の土砂は取り除かれていましたが、まだまだ災害の傷跡はいたるところに残っていました。

(右)松末小学校の3階の教室で、松末地域コミュニティ協議会事務局次長堀真由美さんが話す当日の様子や平常時からの防災、自助、共助の重要性に耳を傾けました。

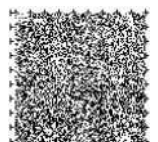
現地の女性団体、特定非営利活動法人住みよいあさくらをめざす風おこしの会理事長星野洋子さんと会員の師岡愛美さん。

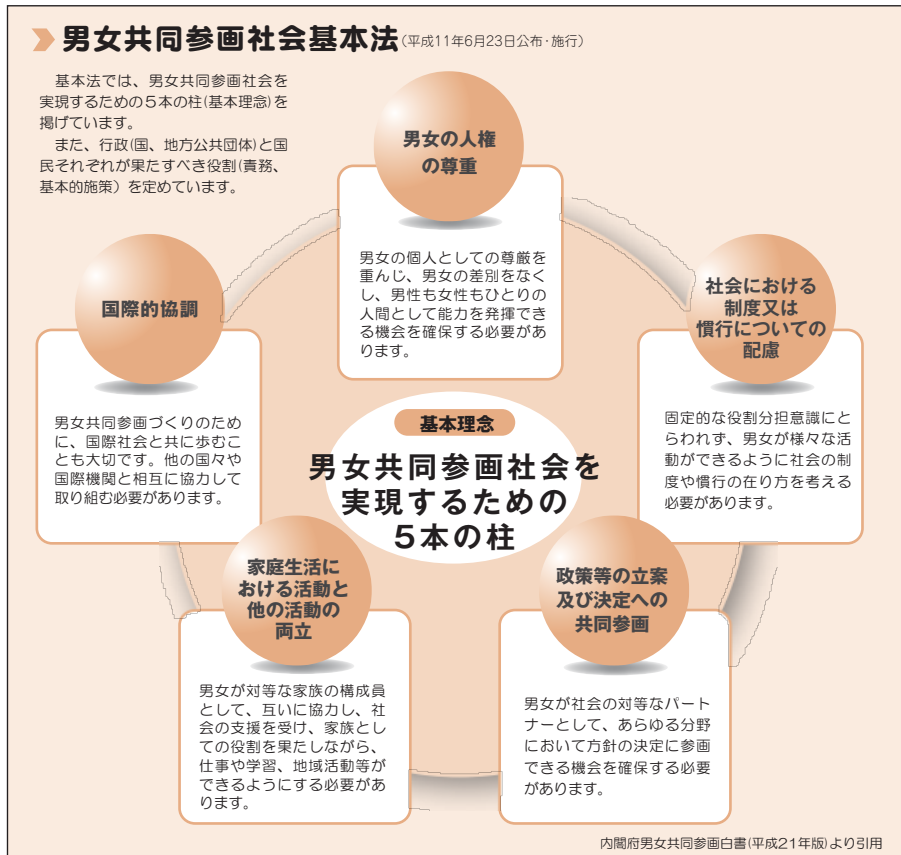
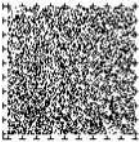
災害後の住民生活の課題や、それに対する行政依存でない民間団体としての活動状況を説明されるとともに、復興に女性の力が必要なことを話されました。



視察の最後に、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授萩原なつ子さんと一緒に、今回の視察の振り返りを行いました。講師は、災害は地域にとって社会関係や社会システムの崩壊を引き起こすものであり、客観的に自分たちの地域を見つめなおし、結果防災・生活防災を実現する必要があると話されました。

参加者は、日頃から地域でコミュニケーションをとること、自分の身を自分で守ること、女性リーダーの必要性、そして求援力・支援力・受援力を発揮する重要性を確認しあいました。





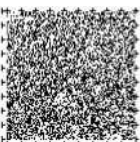
今年は、「男女共同参画社会基本法」が制定されてから20年となります。この間、基本法に基づく男女共同参画基本計画や成長戦略等を通じた様々な取り組みが進められ、社会全体で女性の活躍の動きが拡大し、日本社会は大きく変わってきました。

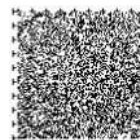
1999年6月に「男女共同参画社会基本法」が公布・施行され、男女共同参画社会の形成に向けた目的、理念等が明確に位置づけられました。2000年12月には、同法に基づく「男女共同参画基本計画」が閣議決定され、以降、男女共同参画社会の形成のための

施策が推進されていますが、それらは従前からの、国内外における様々な取組の積み重ねの成果であると考えられます。特に1975年「国際婦人年」を契機に、女性の地位向上のための国内本部機構として婦人問題企画推進本部が設置されるなど、女性の地位向上の流れが大きく加速しました。

男女共同参画の実現にむけての取り組み

- 1974年 久留米：「勤労婦人センター」開館
- 1975年 メキシコシティ：国連の国際婦人年世界会議開催
- 1979年 ニューヨーク：第34回国連総会で「女子差別撤廃条約」採択
- 1985年 日 本：「女子差別撤廃条約」批准
- 1986年 日 本：男女雇用機会均等法施行
- 1988年 久留米：「女性問題解決のための久留米市行動計画」策定
「久留米女性憲章」制定
- 1995年 北 京：世界女性会議で「北京宣言」採択
- 1999年 日 本：「男女共同参画社会基本法」制定
- 2000年 久留米：「久留米市男女共同参画行動計画」策定
- 2001年 久留米：男女平等推進センター開館
- 2002年 久留米：「久留米市男女平等を進める条例」公布
- 2010年 久留米：「DVのないまちづくり宣言」実施
- 2015年 日 本：「女性活躍推進法」の制定
久留米：「第2次久留米市DV対策基本計画」策定
- 2016年 久留米：「第3次久留米市男女共同参画行動計画・第2期実施計画」策定





一方で、現在でも進学や就職などの進路選択には男女差や相違が見られます。また、性別にとらわれることなく学び、能力を高めてきた若者が社会人になった後、男性中心型労働慣行（長時間勤務や転勤が当然とされている男性中心の働き方等を前提とする労働慣行。）や育児・家事などの負担が女性に偏った家庭生活、いまだ、固定的な性別役割分担意識の根強い地域社会に直面するという現状もあります。近年、女性の就業率は飛躍的に上昇していますが、女性にとっては、出産や子育て等でいったん労働市場から退出することが多く、従来から長期勤続が必ずしも一般的とは言えない中で、社会人の学びなおしについても男性とは異なる側面があります。

このように、固定的な性別役割分担意識や男性中心型労働慣行などの阻害要因を排除し、価値観や慣行の変革と、多様な選択を可能にする学びを充実していくことが、女性の活躍を深化させる原動力となると考えられます。

I - 特 - 8 表 女子の進学率の推移(推計)

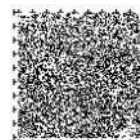
16歳時点	19歳時点	現在の年齢	大学(学部)への進学率(%)	短期大学(本科)への進学率(%)	専修学校(専門課程)への進学率(%)	高等学校等への進学率(%)	最終学歴が高等学校の者(推計値)(%)
昭和39 (1964)年	昭和42 (1967)年	70歳	4.9	8.5	—	67.9	54.5
昭和49 (1974)年	昭和52 (1977)年	60歳	12.6	20.7	13.3	91.9	45.3
昭和49 (1984)年	昭和62 (1987)年	50歳	13.6	21.5	16	95	43.9
平成6 (1994)年	平成9 (1997)年	40歳	26	22.9	20.9	96.8	27
平成16 (2004)年	平成19 (2007)年	30歳	40.6	11.9	24.6	96.7	19.6
平成27 (2015)年	平成30 (2018)年	19歳	50.1	8.3	26.2	97	12.4

- 【備考】
1. 文部科学省「学校基本統計」より作成。
 2. 専修学校（専門課程）については、「学校基本統計」において、昭和50（1975）年以前の値は計上されていない。
 3. 大学（学部）への進学率、短期大学（本科）への進学率、専修学校（専門課程）への進学率は過年度高卒者等を含む。
 4. 進学率は、高等学校は15歳に達した翌年度である16歳の年度の数値、それ以外は18歳に達した翌年度である19歳の年度の数値を掲載している。
 5. 現在の年齢は、平成30年度時点の年齢。
 6. 最終学歴が高等学校の者（推計値）は、各年齢階級の高等学校進学率からそれ以外の学校への進学率を引いた数値である。

内閣府 男女共同参画白書（令和元年度版）より



久留米市男女平等推進センター開館セレモニーの様子



性暴力被害当事者からのメッセージ 「ずっと助けて！と叫んでた」

講師 ほしおか十色さん

6月2日



DVD「ずっと助けてと叫んでた」は、図書情報ステーションで借りることができます。

物心がついた頃から私は実父からの暴力に怯え、精神的にも支配されて育った。幼い私にはDVということとはわからず、ただ世間体を気にする父の態度に、家庭内で起きていることを他の人に言うてはいけないのだと感じて口を閉ざしていた。父の機嫌を損なえば母や私に暴力として返ってくる。小学校高学年の頃からマッサージと称して始まったのが性的虐待。学校で性教育の授業を受けたとき、自分がされている本当の意味を知り愕然とした。生きていくためには自分をコントロールし感情をマヒさせる為の「スイッチ」を身につけざるを得なかった。

高校になると父からの性的虐待はいつの間にか無くなったが、摂食障害、自傷行為、薬物依存、援助交際へと泥沼に溺れていった。そんな中偶然再会した中学時代のスクールカウンセラーの先生が少年サポートセンターに導いてくれた。大人を一切信用してない私だったが、担当者はゆっくりと時間をかけ私の言葉に耳を傾け信頼関係を築いていってくれた。大抵の人は私の話を聞くと「衝撃的です」と言うが、私にとって今まで体験したことのない、人の暖かさに触れることが「衝撃的」だった。

大人になり暖かな言葉や自尊心を育み感情を感情として感じることができるようになった。それは人のつながりがあったからだ。もう一度「生き直したい！」と思えたとき、ようやく『助けて』と言えるようになっていた。

今、私は生きている。これからの私のためにも生きた言葉として誰かに伝えていきたい。

女性のライフプランセミナー 6月1日、6月8日(全2回)



進行の田中美智子さん
(㈱トータルオフィス・タナカ代表取締役社長)



企業の人事担当や先輩起業家からアドバイスをもらいました。

働く意欲を持つ女性が、自身のライフスタイルに応じた働き方（就職・転職・起業）や生き方を通して、その能力を十分に発揮できることを目的としたセミナーを実施しました。

セミナーでは、企業の人事担当の方や起業された方などから、自分の得意な分野を伸ばす方法や仕事の進め方について学びました。時には周囲の協力を得ながら、自分にあった働き方・生き方をしてもらいたいとエールが送られました。

また2日目は、仕事や地域、家庭などの経験を可視化するワークを行いました。これまでの経験を客観的に洗い出すことで、これからの自分らしい働き方や生き方を思い描く上での参考にさせていただきました。

自分らしいライフプランを考えることは、今後の生活をしていく上での道しるべとなります。

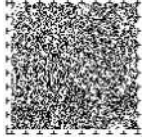


社会保険労務士の西平睦美さんからライフプランの可視化・描き方を学びました。

参加者の声

- ・女性が能力を発揮できないことは、社会としてもったいないと思った。
- ・これからのライフプランを考えていく上で参考になった。
- ・時には、人に頼ることも大切であることがわかった。
- ・自分の時間を自分でマネジメントし、自分らしい働き方、生き方をしたいと思った。

相談室だより



～虐待の背景にみるDV～

●夫婦関係に潜む虐待

相談室には、年間3700件を超える相談が寄せられています。年々、相談内容は多様化していますが、相談のなかで一番多い内容は夫婦関係の問題で、全体の57%を占めています。なかでも、DVに関する相談が多いのですが、相談を聞いていると、子どもへの虐待が含まれるケースが、増加しています。

●子どもへの虐待とは

虐待は、子どもを叩く、殴るなどの身体への直接的な暴力ではありません。育児放棄のネグレクトも虐待の一つです。また、子どもを乗せた車内で夫婦間の言い争いがエスカレートする場面や、家庭内で日常的に妻がDVを受けているのを、子どもが見聞きする場面など、面前DVも心理的虐待です。

来年4月からは、親から子どもへの体罰を禁止

した、改正児童虐待防止法と改正児童福祉法が施行されます。

●虐待のなかのDV

子どもたちが、虐待で命を落とすという痛ましい事件報道があとを絶ちません。子どもが、家庭という密室のなかで虐待を受けるとき、その背景には、DVが存在することが予測されます。夫からのDV被害を受ける母親は、声をあげられずに、社会から孤立し、DV加害をする夫に巻き込まれ支配を受け続けることで、混乱し、結果虐待に手を貸す行動になることもあり、自身を責め続けている母親も多くいます。

久留米市では、DVの発生防止と早期発見を、安心・安全のまちづくりの重点項目に掲げています。男女平等推進センター相談室では、女性の生きかた支援を常に考え、DV防止が虐待防止につながるように、1人でも多くの女性たちの孤立や、生きづらさを、一緒に考える場所でありたいと思っています。

統一地方選 ～女性当選者の躍進が話題となりました！～

平成31年4月に統一地方選が実施され、多くの自治体で選挙が行われました。今回の選挙は、平成30年「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の施行後、初めて行われる統一選でした。この法律は、政党に属する候補者について、男女の候補者を同数にするよう努力義務を課す内容が含まれています。投票結果とともに、当選者の男女比について注目が集まりました。

久留米市議会議員選挙

定数36人のうち、6人の女性が当選し、全体の16.7%となり、前回の15.8%を上回りました。

福岡県議会議員選挙

定数87人のうち、9人の女性が当選し、全体の10.3%となり、前回の9.2%より上回りました。

その他の選挙結果

- 41道府県議会議員選挙（237人の女性が当選）
 - 九州7県議会議員選挙（30人の女性が当選）
 - 福岡市議会議員選挙（11人の女性が当選）
- いずれも、過去の女性当選者数を上回ることとなりました。
- 鹿児島県垂水市議会議員選挙
- 昭和33年の市制施行後、初めて女性の議員が誕生しました。

過去の選挙と比べると女性が当選した議会も多く、政治分野において女性が躍進できました。しかし、今回の選挙の当選者における女性の割合は10.4%と、決して高いとはいえません。

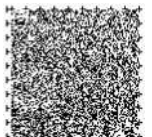
多様な意見を議会に届けるためには、女性議員を増やしていく必要があります。そのためにも、女性が立候補しやすい環境の整備や市民の理解が広がることが望まれます。

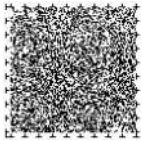


問い合わせ 協働推進部男女平等政策課

電話番号 0942-30-9044

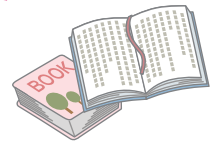
FAX番号 0942-30-9703





図書情報ステーション リニューアル

図書情報ステーションでは、男女平等に関する専門図書室として、よりタイムリーな関連情報をみなさんに発信するために室内をリニューアルしました。



男女共同参画に関する新聞記事を掲示しています

変わりました！

開館時間 平日・土曜 10:00～18:00
日曜日 10:00～17:00
休館日 毎月第2・4木曜日
月の末日、祝日
年末年始



子どもと一緒に絵本をお楽しみください



新着図書を手にとってご覧ください



テーマ別に図書の展示をしています



入口横でリクエストの記入ができます

社会を変える女性たち

図書情報ステーション

女性の進出や活躍が期待されている中、政治に参画する女性や管理職の女性はまだまだ少ないのが現実です。ここでは女性が社会や政治に参画することについて書かれた本を紹介します。

●編集・発行●
令和元年8月

久留米市男女平等推進センター

〒830-0037
久留米市諏訪野町1830-6
えーるピア久留米内
TEL. 0942-30-7800
FAX. 0942-30-7811
URL. <http://www.city.kurume.fukuoka.jp>
E-mail. danjo-c@city.kurume.fukuoka.jp



社会をちょっと変えてみた

ふつうの人が政治を動かした七つの物語

駒崎 弘樹・秋山 訓子／著 岩波書店 2016年

大きな夢を持ち、強い意志をもって道を切り拓いた100人の女の子を肖像画とともに紹介します。全部世界のどこかで本当にあったとびっきりのポジティブストーリーです。

女は「政治」に向かないの？

朝日新聞政治担当編集委員 秋山 訓子／著 講談社 2018年

「政治」は女に向かない職業？女が政治に関心を持つことは特殊なこと？7人の女性政治家がどういう思いで政治を志し、どんな経験をしてきたのか。「有権者である女性」が投票することで政治は変わるかもしれないと語る。

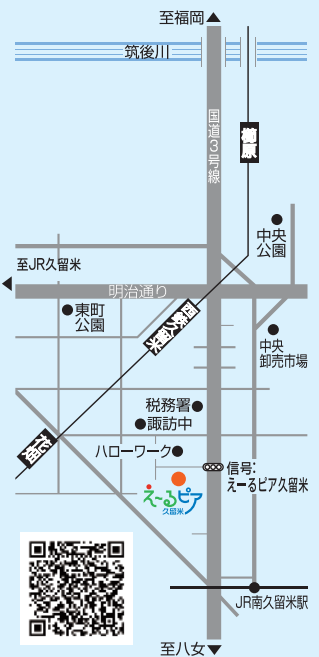


地方を変える女性たち

カギは「ビジョン」と「仕組みづくり」！

麓 幸子／著 日経BP社 2014年

女性の力を生かせば地方は変わる！地方で活躍する17人の女性たちが起こした奇跡の詳細を、本人のロングインタビューで紹介する。



- 徒歩/西鉄久留米駅から約10分(約700m)
- バス/西鉄久留米駅から約5分
JR久留米駅から約20分
「税務署前」下車、徒歩5分
- 駐車場(有料)はございますが、おいでの際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

この広報誌は環境に配慮し、再生紙を使用しています。